

\\ しもやまの魅力や地域の活動を **知って** **届けて** **広めよう** //

WE しもやま LOVE



世界ラリーが今年も下山にやってくる！

11月6日(木)～9日(日)に「FIA世界ラリー選手権(WRC)フォーラムエイトラリージャパン2025」が開催されます。下山地区では、機運醸成のため、10月1日～11月30日をしもやまラリー応援期間と位置づけ、しもやまラリー実行委員会が中心となりラリーを盛り上げる取組を実施します。今回は応援期間の見どころを実行委員会の2名の部会長にお話を伺いました。

【酒井 地域活性化部会長コメント】



地域活性化部会ではオリジナル商品や啓発品の作成、下山を彩るビレッジドレッシング(地域を装飾すること)などの取組を実施しています。今回は、新たに始めた、ビレッジドレッシングの取組である「7自治区横断幕」を紹介させていただきます。全7自治区の要所に横断幕を設置します。全自治区の住民の皆さまに、ラリーを知って応援していただきたく始めました。ラリーを応援する合言葉は、「ナイスラリー！」です。

【黒木 イベント広報部会長コメント】



イベント広報部会では、下山地区のイベントに参加し、ラリーの啓発やブース出展をしています。直近では、各自治区の夏まつりにも参加させていただきました。今後も10月19日(日)のTTC-Sオータムフェスタや10月26日(日)のしもやまスマイルフェスタにも出展します。是非ご来場いただき、実行委員会限定オリジナルステッカーなどを手に入れてください。



▲「7自治区横断幕」デザイン

しもやまラリー実行委員会からのお知らせ

【一緒に活動して下さるボランティアを募集します！】

世界ラリー選手権の三河湖SS当日には、下山地区に約2,000人の観客の方々が訪れます。しもやまラリー実行委員会では、一緒におもてなしをして下さるボランティアを募集します。「下山が好き!」「ラリーが好き!」という方をお待ちしています。



豊田市
ホームページ



しもやまラリー
実行委員会
ホームページ



まちやの突撃！？隣のしもやまファンVol.10「森 隆司さん」

このコーナーは、地域記者まちやの連載コラムです。下山地区に移住・定住された方たちを紹介し、下山地区の魅力の再発見を目指しています。今回は、大沼町に移住された森隆司さん取材しました。

【森隆司さんのプロフィール】

隆司さんは愛知県豊田市五ヶ丘のご出身。大学進学を機に山形で一人暮らしを始め、回路研究を学びました。卒業後は春日井市のプリント基板会社に就職し3年間勤務。その後、さらなる経験を求めて東京のアウトソーシング企業へ転職し、30歳まで働きました。やりがいはあったものの「自分の本当に求める暮らしとは違う」と感じ、地元・豊田へ戻る決意をします。大学で学んだ回路設計やエンジニアとしての経験からは、設計の過程における創造性と自由度の楽しさを実感。また、幼い頃から親御さんの趣味である日曜大工に親しみ、木材や工具に触れてきたことも影響し、革や木を使ったものづくりへと関心が広がりました。現在は「生活創造堂」というブランドを立ち上げ、革細工や木工を中心に活動。2018年に下山地区の大沼町へ移住し、7年目を迎えています。



▲まぢや(左)と隆司さん(右)

【しもやまに移住したきっかけ】

移住のきっかけは、下山地区で開かれた田舎暮らしを紹介するイベントでした。そこで移住者の祖父江さんと出会い、体験談を聞いたことで「ここで暮らしたい」という思いが芽生えます。その後、空き家バンクで理想的な物件に出会い、大沼町の自然と利便性のバランスに魅力を感じて移住を決意しました。



▲隆司さん作
しもやまの竹を使用した水鉄砲(左)
動物シルエットプレート(右)

【生活創造堂について】

隆司さんが手がける生活創造堂は、愛知県豊田市を拠点に革細工を中心とした手づくり雑貨を制作・販売しています。地域でとれる革や木材を活かし、日常を「楽しく・便利に・豊かに」するアイテムづくりに取り組んでいます。財布やキーケース、バッグ、小物など生活に馴染む品が中心で、オーダーメイドにも対応。使う人に寄り添った、世界に一つのアイテムを届けています。

【隆司さんからしもやまの好きなところをひとこと！】

「しもやまでの暮らしは、ちょうどよい距離感があるのが魅力です。地域の人たちと深く付き合いすぎなくても心地よく暮らせますし、困ったときにはしっかり支えてくれる安心感があります。車さえあれば日常生活に不便を感じることもありませんでした。また、消防団に参加したことで地域とのつながりがぐっと広がり、多くの方と知り合うきっかけになりました。移住して間もない頃から、周りの方々がすぐに顔と名前を覚えてくれて、とてもありがたく感じました。こうした温かい人間関係が、ここでの暮らしをより豊かにしてくれています。」

取材・記事：川合真裕(まぢや)：平成4年生まれ。小・中・高校と卓球に明け暮れる毎日。羽布建設の家業を継ぐため現在奮闘中。下山を盛り上げたいという思いを持った同級生5人組「Village Fan's Co.」代表。現在、里楽暮住(りらくす)しもやま会の委員に就任しています！





わくわく事業団体の活動 しもやまみんなの学び舎*たんぽぽ

【映画「夢みる小学校 完結編」上映会&交流会】

文部科学省特別選定作品「夢みる小学校 完結編」の上映会を開催します。この映画は、テストも通知表も先生もない「夢みる小学校」を通して、こどもがありのままにいられることの大切さを伝えています。上映後の交流会では、参加者同士の対話を通じて映画の感想を共有し、こどもも大人も共に学びを深めます。

- 日 時 12月6日(土) 上映会 13:30~15:15
交流会 15:30~(30分程度) ※交流会は自由参加となります
- 場 所 豊田市下山保健福祉センターまどいの丘 (神殿町)
- 料 金 大人1,000円 (高校生以下無料)
- 申込締切 12月3日(水)
- 申込方法 お申し込みは右の二次元バーコードから



みなさまのご参加
お待ちしております!

▲昨年度の上映会の様子



下山の「花沢石」の展示が博物館で実施されます

豊田市博物館で漫画「ゴールデンカムイ」にも登場する国境標石が展示されます。この標石は日露戦争後に樺太に複数設置されたもので、国内に唯一現存する1基が根室市からやってきます。標石の材料には花沢町で採掘される花崗岩(花沢石)が使用されていると言われています。花沢石は、明治時代から採掘がはじまり、良質な石材として利用されてきました。



▲国境標石
写真提供 根室市

博物館を訪れた際には国境標石をご覧いただくとともに、下山地区の自然に思いを馳せていただければと思います。

博物館の展示協力を行っている株式会社鈴木石材(花沢町)の鈴木利夫さんにお話を伺いました。鈴木さんは、博物館の学習活動をサポートする「とよはくパートナー」として地域の岩石や石材業について紹介する取組をしています。

【鈴木利夫さんのコメント】

昨年度に博物館で開催された特集展示「くらしを支えるとよたの地下資源」では、「とよたの花崗岩と石材産業」として鈴木石材が提供した花沢石が紹介されました。愛知県内には、岡崎石等有名な採掘場が複数ありましたが、国境標石の石材として花沢石が選ばれた理由としては、凍結に強い特性があるからだと思います。花沢石は外側が赤く、中心が白色になっており、国境標石は白い箇所の花沢石が利用されています。現在、三河地区の採掘場の多くが閉鎖してしまい、石材文化は衰退しています。これを機に石材に親しんでいただければ嬉しいです。



▲加工中の花沢石

- 展示期間 令和7年10月18日(土)~令和8年3月29日(日)
- 展示場所 豊田市博物館 常設展示室 とよたストーリー
- 料 金 一般300円 高大生200円 中学生以下無料
※豊田市内在住の方は無料(要証明書)



下山地区の防災力を高めました

8月31日（日）、下山地区の自主防災会により各自治区で防災訓練が行われました。自治区ごとに訓練内容を計画し、防災力をレベルアップしました。

【大山 下山自主防災会長コメント】

当日は残暑厳しい中、各地区で訓練が展開された事、携われたすべての方々に感謝申し上げます。今年度より、下山地区全体で統一の訓練テーマを設けることとし、今回は「停電への備え」をテーマに実施しました。詳細については次号のしもやま自主防災だよりも掲載する予定です。

また、訓練の数日後、9月5日には大雨による水害が下山地区内でも多数発生し、あらためて自然の脅威を実感することとなりました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。当日は地元消防団の方々にも迅速な対応をしていただき心強く感じました。災害はいつ起こるか予測もつきませんが、日ごろから防災への関心を高めましょう。



▲発電機の取扱を消防団員から教わりました



▲下山自主防災会
大山会長



▲消防団第8方面隊
澤田方面隊長



第2回LEXUS&GRチャレンジLab@下山中

9月10日（水）、下山中学校3年生を対象に第2回LEXUS&GRチャレンジLab@下山中が開催されました。テーマは「水素社会×自然との共生」。水素を使った自然や地球環境を守る取組について体験を交えて学びました。

今回、水素エンジンのバギーと、植物を由来とするバイオ燃料のバギーがやってきました。生徒は一人ずつバギーに乗り込み、その力強さやスピードを体感しました。

もうひとつの実験として、「水素グリル」でマシュマロを焼いて試食。水素は燃やすと同時に水蒸気が発生するため、しっ



▲運動場を走るバギー



▲水素グリルでマシュマロを焼いて試食

とりとした焼き上がりになります。生徒たちはガスコンロで焼いたものと食べ比べ、その違いを体験しました。

体験を終えた生徒からは、「エンジニアの方の話はとても分かりやすかった」「水素バギーは、二酸化炭素ではなく水蒸気を排出することを知り、環境に優しい水素で走る車の取組について興味を持った」「水素はクリーンなエネルギーで、積極的に使用すれば地球温暖化の進行を止められるかもしれないと分かった」などの感想が聞かれました。笑顔があふれ、大満足の体験となったようです。



世界ラリー選手権（WRC）が来月に迫り、表紙に掲載されているように今月からラリー応援期間が始まります。第11回は、WRCの見どころについてお聞きしました。

Q：WRCはどこに注目するとより楽しんで観戦することができますか？

A：今年は豊田スタジアムは走らず、豊田市スーパーSSでは豊田の市街地を走ります。ラリー競技で市街地を走ることは珍しく、豊田大橋など馴染みのある場所が非日常に感じられ、印象的なものになると思います。また、ラリー競技はサッカーや野球競技などと比べ選手との距離が近いことが特徴だと思います。リエゾンでの応援のほか、特にサービスパークでは選手にサインをもらうなど触れ合えるチャンスがあります。



本名：洪銘蔚（ホン・ミンウイ）
下山地区在住のラリードライバー
豊田市わがまちアスリート

Q：サービスパークとは何ですか？

A：ラリー競技中選手以外の整備スタッフがラリーカーに触れ、車載の道具類以外を使用してサービス（整備・修理の作業）ができることです。WRCの昼のサービスタイムは短い日では15分間しかなく、それを超えた場合はペナルティがあります。

Q：サービスパークで選手は何をしていますか？

A：チームスタッフとの打ち合わせや、休息、選手によってはファンのところに行き、ファンサービスをすることもあります。運が良ければサインをもらえることもあります。



▲WRC2024サービスパークの様子

【今回の学び】サービスパークはラリーカーの整備や修理を見るだけでなく、選手に最も近づいて応援できるスポットです。皆さんも今年のWRCはアイテナリー（競技のスケジュール）でサービス時間をチェックし、選手とラリーカーを間近に感じて応援してみましょう！ ※サービスパークには入場券が必要です。

下山地区データ

人口
3,877 人
(-82)

男性
1,933 人
(-36)

女性
1,944 人
(-46)

(9月1日現在)
※（）は前年同月比
世帯数
1,640 世帯
(-5)

発行者情報

編集・発行

豊田市役所下山支所（〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1）
毎月15日発行

お問い合わせ

TEL 0565-90-2111 FAX 0565-90-3344
MAIL shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を掲載しませんか！



〔 社協下山支所だより 〕

まどいの丘



住所：豊田市神殿町中切7番地2

TEL:0565-90-4005 / FAX:0565-90-2419 / MAIL:shimoyama@toyota-shakyo.jp

身体も心も元気で暮らそう



健康・福祉

デイサービスではこんな夏を過ごしました！



ゴーヤケーキ



今年度から始めた、まどいガーデン

収穫したゴーヤでケーキを作り、おやつに皆で美味しく頂きました！種は来年度植える予定です。

またご利用者様より知恵を貸していただき、一緒に畑を作り上げ、収穫した小ぶりのジャガイモでしたが、おやつに美味しく頂きました！

身体も心も元気で暮らそう



健康・福祉

まどいの「じ～ば～♡」活動

地域の皆様から温かいメッセージ、喜びの声が届きました。ご利用者様だけでなく、スタッフの励みになります。ありがとうございます。

いただいたメッセージなどは10月26日（日）のスマイルフェスタで作品展示しますので、是非お立ち寄りください。

雑巾縫い、リメイクなど簡単な仕事を是非依頼下さい。

また、新聞紙や包装紙、古着、牛乳パック、自宅では使わないタオルなども募集中です。

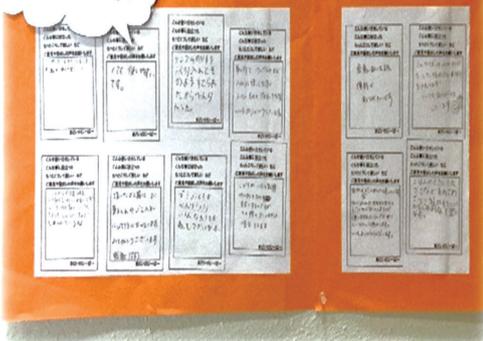
問い合わせ先：まどいの丘デイサービスセンター

電話：90-4005

担当：溝口、新村、大竹



喜びの声、感謝の言葉が
寄せられています！





下山交流館だより

連絡先
TEL:0565-91-1650
FAX:0565-91-1030



開館:午前9時~午後9時 休館日:月曜日(祝日、振替休日を除く) H P:<http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

しもやまスマイルフェスタ

日時:10月26日(日) 9:30~15:00

会場:下山交流館・憩の家周辺・基幹集落センター

※詳しくはチラシをご確認ください!



《交流館利用の変更お知らせ》

	受付業務	図書返却 予約貸出	図書閲覧 貸出	部屋利用	子育て 交流スペース
10/25(土) 終 日	○	○	×	×	×
10/26(日)9~18時	○	○	×	×	×

※10月26日(日) 18:00以降は通常開館します



講座報告

やまの保健室プラスサロン

8月21日(木) トロカデロさんのシャンソン鑑賞会を行いました。美しい歌声とギターのしらべが心に響きわたり参加者はうっとり♡日常を離れた華やかなムードに酔いしれました。毎回保健師による健康相談も行っています。

今後の予定:10月16日(木)・12月18日(木)
どなたでもお気軽にお立ち寄りください。



虫捕りと標本教室

8月24日(日)まどいの丘にて虫捕りと標本づくりを楽しみました。

いろいろな昆虫を観察し、自然の中の小さな命を感じることができました。標本づくりでは四苦八苦しながらも講師のアドバイスを受け二種類の標本を完成することができました。子どもたちの笑顔が溢れる楽しい時間となりました。



お知らせ

WRC FORUM8 RALLY JAPN 2025
パブリックビューイングを実施します!

日 時:11月6日(木)~9日(日) 9:00~17:00
会 場:下山支所ロビー

下山からラリーを盛り上げよう!!

11月のロビー展示

よつば会
布小物

『楽しい仲間展』





冬支度・布団

絵と文 なまむらじゅん



裏返した
布団倒りの上に
綿を横縦と交互に重ねて作るよ

打ち直した綿は
広げるとシート状になている

冬支度 暖かい布団が恋しい季節。昔の人は
冬に暖かく眠れる布団を自分で準備したよ。

昭和の初期は敷布団も掛布団も木綿の綿。
長く使って固くなった綿は布団屋さんが「打ち
直」と言って洗ってほぐしてほわほわの
綿に作り直してくれた。その水をお盆前や、

刈り取り前の百姓仕事の手が空いたお天気
のよい時に、布団側を洗って干し、使える古い綿も
干して準備、打ち直した綿とあわせて布団作りをしたよ。ふわふわの綿だけで作るより、

古い綿もあわせて作ると、重みもあって暖かい布団が出来たんだ。やる時は綿が舞うの
で部屋を閉めて体中綿だらけになつた作業。寝心地良く、布団の角の綿をぴんと
形よく作るのが主婦の腕の見せ所だよ。替える時は家ごとでちがうよ。

それから「わら布団」を作ったよ。今のマットレスみたいな物で、作るのは秋の寒くなる
前の良く乾燥した日。これは年寄りや病人や、体の冷えやすい人のために毎年作ると
ても暖かい敷布団だったさうだよ。布団側の中に良く乾いている古い去年のわら

を2cmくらいに押切で切って、人によっては切らないわらをそのまま入れることもあったさ
うだけれど、ギョッと詰めて、布団にして敷布団の下に敷いて寝たんだって。春になると、
べしべしになったわらは布団から出して、肥やしに再利用したんだよ。

昭和初期は畳はまだ贅品、板間に藁を敷く暮らしたので、冬は寒かった。
暖かい布団の準備は主婦の大事な仕事、しかも物を大切に使ったんだよ。

